



日産自動車 × KONDO Racing × 日産自動車大学校

『自らのGTチャレンジ!』

NISSAN MECHANIC CHALLENGE



2019 AUTOBACS SUPER GT Round 6 AUTOPOLIS GT 300km RACE

レポート 日産愛媛自動車大学校 学生広報

2019年9月7日~9月8日 AUTOPOLIS





予選

9月7日

天気：曇り 気温：28℃ 路面状態：ドライ

午前の公式練習を無事に終えた 56 号車は、順調に午後の予選を迎えた。気温が予想より低く、タイヤの摩耗が激しい中、Q1 担当のサッシャ選手はタイヤを温存しつつ、1.46.041 という好タイムで 15 位に入り Q1 を乗り越えた。

GT500 クラスの Q1 を挟み、GT300 クラスの Q2 がスタート。Q2 担当の平峰選手は、64kg というウェイトハンディを感じさせない走りを見せ、1.45.409 というタイムを叩き出した。ウェイトハンディがあり、タイヤのコンディションを考えて念入りにタイヤを温め、1 ラップで好タイムを出す 2 人のチームワークの良さで、9 位に入る決勝への良いスタートとなった。

予選結果

Pos.	No.	Machine	Q2Time	Q1Time
1	25	HOPPY 86 MC	1' 44.423	1' 44.803
2	52	埼玉トヨペット GB マーク X MC	1' 44.520	1' 44.828
3	7	D' station Vantage GT3	1' 44.653	1' 44.914
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
9	56	リアライズ日産自動車大学校 GT-R	1' 45.409	1' 46.041





決勝

9月8日

天気：曇り/雨 気温：28℃ 路面状態：ドライ/ウェット

公式練習走行を終えた 56 号車は、1 番手の平峰選手の好調な走りで 2 番手に登りつめた。しかし急な雨により他車のスリップでセーフティーカーが入る場面があり、差を広げていた 56 号車だったが、アドバンテージを失ってしまう。さらにコース自体がドライ、ウェットだったため、各チームタイヤの選択に悩んだ。セーフティーカーが入る前にピットインし、タイヤ交換をするチームにより、一時、ピット前は大混乱が起きる一幕もあった。レース途中、ウェットタイヤに交換する為ピットインを余儀なくされた 56 号車だったが、コースに戻った時には 16 位まで順位を落としてしまった。

2 番手のサッシャ選手は 16 位からのスタートとなった。諦めず上位を狙うためスタートしたがセーフティーカーが入り順位を上げることが出来なかった。セーフティーカーが外れた時は、すでに残り Lap18 であったが、サッシャ選手の冷静かつ情熱的なドライビングにより、ウェットコンディションにもかかわらず 1,47.851 というとても速いタイムを叩き出す。1 周ごとに順位を上げ、10 秒差のあった車にもわずかに 1 周で追いつく見事な走りにより、最終ラップでも 1 台をパスし 8 位という挽回を見せチェッカーを受けた。

決勝結果

Pos.	No.	Machine	Best Time	Lap
1	60	SYNTIUM LMcorsa RC F GT3	1.48.814	62
2	720	Mc Laren 720S	1.49.141	62
3	88	マネパ ランボルギーニ GT3	1.49.218	62
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
8	56	リアライズ日産自動車大学校 GT-R	1.47.851	62





ドライバーインタビュー

平峰 一貴選手



4歳の時からカートをやっており、他のスポーツよりも自分自身と一番向き合えると感じられたのがドライバーだったので、今もプロとして続けています。ドライバーのメンタルは、基本みんな神経質になりやすいのですが、そうならないように自分の神経質な部分をなくすように努めています。そして、レースでは色々なシチュエーションでプレッシャーが掛かる事が多いですが、それに押し潰されないように戦うことがとても大切だと考えています。

フリー走行の時から車両が良い状態に仕上がっており、ウェイトハンデが60kg以上とかなり重たい状況でしたが、予選を9位で終えることが出来てほっとしています。

サッシャ・フェネストラズ選手

父と兄弟がカートレースをやっている、自分もそこに続いて始めたのがドライバーになるきっかけです。

ドライバーはレース時にメンタルを良い状態にもっていくのがとても難しいのですが、例え良くなくてもその中でどれだけ自分が安定した走りを見せられるかが重要だと考えています。

予選では、重たいウェイトハンデのわりに15位という成績で平峰選手に交代できたのでとても良かったと思います。



KONDO Racing 統括本部長 河野さん



レースに優勝するというのも大事なことです、レース毎に学生とTSメカニックの方と協力体制をしっかりとって活動していくという事を第一に考えています。そしてレースの現場での真剣勝負を一緒に共有してもらい、集中する時と楽しむ時、リラックスする時のメリハリを持って過ごしてほしいと思います。

参加しているメカニックの方達は、モチベーションを高くしてレースに挑んでくれているので、学生の皆さんはそういう人達をお手本にしてこれからの成長に繋げていってほしいと考えています。





TS インタビュー 【参加した TS の方 2 人にインタビューを行いました。】

日産サテリオ佐賀 川副さん

私はレースが好きで、観客の視点からではなくピットの中での作業を見てみたいと思い、このプロジェクトに参加しました。

販売会社で行う作業ととても似ていると感じましたが、作業方法が違う部分も多々あり、そういう貴重な光景を目に焼き付けて帰りたいと思います。

学生の方達が学校で習っている勉強は、就職してから学ぶことが出来ないものが多いので、今のうちにしっかり学んでおいてほしいと思います。



日産プリンス長崎 澤田さん

仕事をするからには1番になりたいと思い、将来的にGT-Rの認定メカニックの資格を取得するためのステップアップとしてこの活動に参加しました。

極限状態のレースでも安全に走行することを求められる状況で、どのような整備がなされているのかというところに注目しました。そこでは、アライメントをシビアに見ていたり、空気圧を一つ一つ何回も測り直していたりと、とても厳しい世界だなと感心しました。

このような貴重な体験をさせて頂ける機会はないので、学生の方達は、今回学んだ事を就職後に活かしてもらい、私と同じようにメカニカルチャレンジに参加して、またステップアップをしてほしいと思います。





学生の活動を振り返って

テクニカル部門 リーダー 3年 橋本 夏奈

小さい頃からモータースポーツが好きで、憧れのレースメカニックの方達と共に携わりたいと思い参加しました。1年生の頃から3年生までPITでの作業を担当させて頂き、アクシデントや天候の変化に柔軟な対応が積極的に出来るようになりました。

また、最後まで諦めなければ結果がついてくるという事を学び、これから先で困難に直面してもそれが活かされるように努力を重ねていきます。



マネジメント部門 リーダー 3年 岩田 莞爾



私は SUPER GT のスタッフを体験し、お客様対応について学ぶためにこの活動に参加しました。この活動を経験することで、正しいお客様対応だけでなく、リーダーとして周囲へ気を配りながら行動することの大切さを学び、整備士としての技術はもちろん、お客様とのコミュニケーションの能力、さらには積極的な行動ができる主体性がとても重要だと実感しました。

これらのことを活かし、就職してからも信頼を得られる接客と行動を心掛けていきます。

PIT マネージャー部門 リーダー 3年 稲葉 智大

今年は最上級生として、リーダーシップを取りながら活動していくことで、より濃い経験ができると思い、学校では学べない貴重な体験をしたくて参加しました。

レースでは車やドライバーが注目されますが、その裏ではスタッフやメカニックの方たちが、1つのミスも許されない中一緒に闘っています。

1人1人が役割を的確にこなし、チーム全体で1つの目標に向かっていくことの大切さを学びました。





全体リーダー 3年 御手洗 佑太



私は、日産自動車大学校に入学する前にこのプロジェクトのことを知り、レースのことに興味を持つようになりました。このプロジェクトでチームワークの大切さを学ぶために、1年生の時に参加したのが始まりです。去年は班長、今年は全体リーダーを経験し、チーム全体を見て判断することや、チームに情報を配って連携をとり、まとめ上げることがいかに難しいかを知りました。

このような瞬時の柔軟な対応や判断は、将来リーダーシップを取るうえでとても重要だと思うので、貴重な経験ができたことにとても感謝しています。

参加した1・2年生にもインタビューをしました。

マネジメント 2年 畑中 梨乃

昨年、SUPER 耐久レースでスタッフとして参加させていただいた時、大迫力のレーシングカーたちを見てとても感動し、その気持ちをもう1度感じたいと思い、この活動に参加しました。

SUPER GT は知名度が高く、観客数が多くて驚きました。その中で私たちがスタッフという立場で参戦出来るということに有り難い気持ちでいっぱいです。

この大舞台での活動によって、主体性を持って行動することの大切さを知り、将来に活かされるようこれからの学校生活で身に付けていきます。



PIT マネージャー 2年 石崎 拓海



私は小さい頃から車が好きで、このレースプロジェクトに興味を持ちました。昨年もスタッフとして参加し、自分の更なる成長を感じてみたくなり、参加を決心しました。

1つの目標を達成するためにチーム全体が団結し、極限の状況の中でも集中力を切らさずに責任を持って仕事をこなす重要性を学びました。

これらのことは、整備士として社会に貢献するときにも必要なことなので、プロジェクトに参加できたことはとてもありがたいと感じています。





テクニカル 1年 松木 伶司

スタッフとしてレースに参加するという初めてのことにチャレンジすれば、授業では学ぶことのできない知識や新たな発見があるのでは無いかと思い、参加させて頂きました。

ピットで作業をしている人達の姿を見て、私も熱意を持って取り組む事の出来る仕事をしたいと思いました。

これからの学校生活では、将来に向けて今できる目の前の事から真剣に取り組むようにしていきます。



日産愛媛自動車大学校 統括 小倉 保徳



最初統括の話をお受けした時、私には荷が重いのではないという思いと、SGTという大きなプロジェクトへのチャレンジで得られる新たな経験への期待を感じていました。

不安とプレッシャーで悩んでいましたが、私がチャレンジをすることによって学生にもチャレンジする勇気や意義を知ってもらいたいと考え、今回統括をさせて頂きました。

実際に計画を立てていくと解らないことだらけで困惑することが多かったですが、なにかと良い活動にしたいという一心で取り組んでいくうちに周りの人達からの協力も得られ、無事に活動を終えることが出来たことを嬉しく思います。

スタッフとして参加して頂いた学生の皆さんは、今回の貴重な体験を経てそれぞれ大切なことを学んでくれたことだろうと思います。その経験はこの先必ず有益なものになってくれるはずです。決して楽しいことばかりではなかったかもしれませんが、しんどいことや不安なことから逃げず、前向きにチャレンジするということがとても意味のあることだと理解してもらい、これからも辛いことにも立ち向かって自分の経験を深めていける人間になって欲しいと思います。

プロジェクトが始まって以来の「モータースポーツを通じて人を育てチャレンジする」という理念を揚げ、今後も継続できることを切に願います。



広報：西村亘平 梶元達輝 吉賀悠紀 武田匡能 日野友起人

